

あやんつ 綾道

ひら 平良コース
 散策マップ

「あやんつ」とは宮古島のごとばで
 「趣のある道」という意味。

良港と豊富な地下水に恵まれた旧市街地「平良」は、古くから人々が暮らしを営み、発展してきました。同時に歴史をいろどる英雄たちの活躍の舞台でもありました。平良綾道は時の道しるべ。ショートコースでは宮古島統一にいたる物語を、ロングコースでは人々の暮らしに欠かせない水（井戸）と祈り（御嶽）を訪ねます。

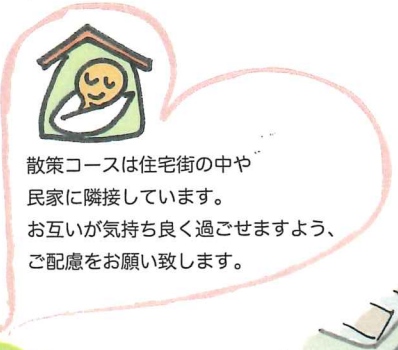
● ショートコース：約2km（約1時間）
 ●+● ロングコース：約4km（約3時間）



こわさない
 らくがきしない
 持ち帰らない
 踏み踏まない
 草むしりしない
 土を動かさない

散策コースは住宅街の中や民家に隣接しています。お互いが気持ち良く過ごせますよう、ご配慮をお願い致します。

文化財を許可なく無断で現状変更することは法律で禁止されています。



英雄たちの物語

目黒盛と与那覇原軍の戦い

14世紀頃は領土争いの絶えない時代。中でも与那覇原軍は、村々を襲っては焼き尽くす荒くれ者の集団でした。与那覇原軍は目黒盛に戦いをしかけます。漲水の崖まで追いつめられ、死を覚悟した目黒盛でしたが、洞穴から1頭の犬が飛び出し、敵軍に襲いかかりました。なんと7年前に行方不明だった目黒盛の愛犬でした。虎のような犬の攻撃にひるんだ敵の隙をつき、逆転して勝利した目黒盛は、この後「豊見親(とうゆみや)」と呼ばれ、戦乱の世に終止符が打たれました。

与那覇勢頭豊見親の中山朝貢

与那覇勢頭は、明国へ向かう途中で宮古島に漂着した琉球中山の使者から、大国琉球の情報を得ます。白川浜で船を造り、中山王察度に謁見し、琉球語を3年学んだ後、八重山の首長を伴い改めて朝貢。察度王から宮古島の主長に任じられ、以後「豊見親」と称します。朝貢は「中山はじめて強し」といわせる程の影響があったようです。

仲宗根豊見親の宮古島統一

目黒盛と与那覇原軍の戦いから約100年後、目黒盛豊見親の5代目として生まれた空広(すらびゅう・後の仲宗根豊見親)は、与那覇勢頭の孫、大立大殿(うだてうぶとの)に我が子のようにかわいがられます。そして大立大殿の息子が亡くなると、名実ともに宮古島の主長となり、仲宗根豊見親と称されます。仲宗根豊見親は王府軍に従軍し、八重山のオヤケ赤蜂(あかはち)や与那国島の鬼虎(おにとら)を征討。宮古の力を示しましたが、それは同時に、首里王府の宮古・八重山支配が急速に進むことにもなりました。

1 宮古神社

宮古には珍しい拝殿、社殿、鳥居、狛犬がある神社。熊野権現に仲宗根豊見親・与那覇勢頭豊見親・目黒盛豊見親が合祀されている。

2 祥雲寺の石垣(市指定文化財)

1611年に開山。大きな石垣には宮古島独特の石積み技術を見ることができる。

3 漲水石畳道(市指定文化財)

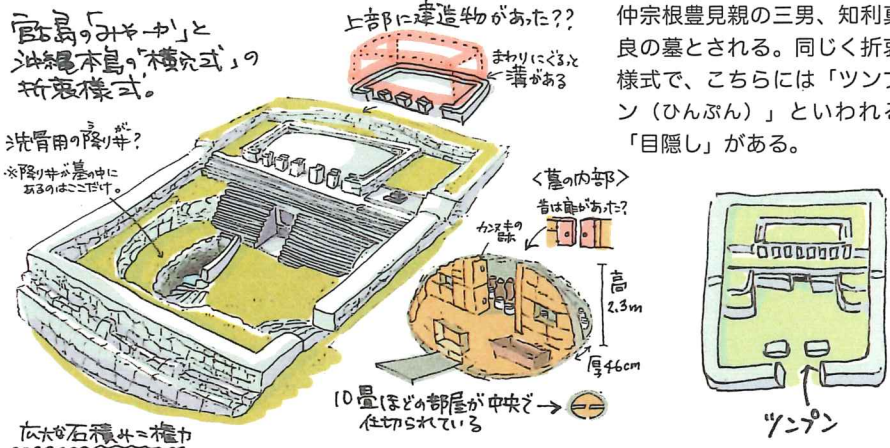
18世紀はじめの石造技術が伺える。漲水御嶽前から祥雲寺北東の辻まで続いていた。

4 漲水御嶽

宮古島創世神話や人蛇婚説話などにいざられた特別な存在。

5 仲宗根豊見親の墓(国指定文化財)

15～16世紀初頭、約半世紀にわたって宮古島を統治した仲宗根豊見親が、父を弔うために築造したといわれる。



8 ユーラジ御嶽

この御嶽の交差点では、吉日を選び、道行く人の会話から吉凶を占う「ユーラジ(夜占い)」が行われていた。

9 仲屋金盛みゃーか(市指定文化財)

仲宗根豊見親の長男の墓。家臣に騙され、城辺友利(ぐすくなぎともり)の豪族、金志川那喜多津(きんすきやーなきたつ)を死に追いやる。後に琉球王府からその罪を問われ、非を悔い自害する。この一件によって「豊見親」制度が廃止される。金盛は不屈きものとして忠導氏の墓に入れず、ここに埋葬された。

6 アトンマ墓(国指定文化財)

仲宗根豊見親を祖とする忠導氏(ちゅうどうじ)の一族の「アトンマ(継室)」たちの霊が弔われている。

7 知利真良豊見親の墓(国指定文化財)

仲宗根豊見親の三男、知利真良の墓とされる。同じ折衷様式で、こちらには「ツンブン(ひんぶん)」といわれる「目隠し」がある。

宮古島の位置

東京都まで約2000km
沖縄本島まで約300km

石垣島まで約130km
台湾まで約380km

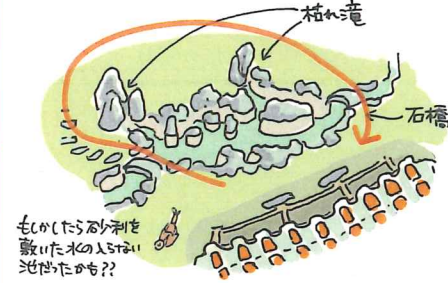


10 外間御嶽

目黒盛豊見親の祖父から孫までの5代を祀った墓。かつては13年に1度、竜宮から伝授されたという「コネリ祭」が行われていた。

11 忠導氏仲宗根家の庭園

仲宗根豊見親を祖とする忠導氏家の庭園。琉球庭園の典型的な回遊路は宮古島で唯一残るもので、一族の繁栄が偲ばれる。



12 仲屋まぶなり御嶽

仲屋金盛の一人娘マブナリは、父親の罪を受け、人質として琉球王府へ。尚清王(しょうせいおう)の寵愛を受け懐妊したが、妻妾たちの嫉妬激しく、宮古島へ戻ることになった。しかし、その帰途、船頭の狼藉にあうなど、度重なる不幸の末、故郷に帰ることなく多良間島の浜で息を引き取った。

13 尻間御嶽

心根の悪い継母伝説が残る御嶽。

宮古島のヒロインたち

長井の里のモース

目黒盛の祖母にあたるモースは、福運を授かってこの世に誕生したといわれる女性。最初の夫はモースを妻にして富貴になりましたが、モースを追い出したとたんに家は没落。2番目の夫、炭焼太郎はどんどん栄えました。目黒盛はその孫にあたります。

仲宗根豊見親の妻 宇津免嘉

オヤケ赤蜂、鬼虎を討った仲宗根豊見親は、宇津免嘉を伴い、首里に上ります。その美貌と貴族は宮中の者たちを圧倒したといわれます。「大阿母」の位を授けられた宇津免嘉は、宮古島中の神女たちを統率し大きな力を持つようになりました。

戦乱の世の犠牲になった悲劇の姫君

鬼虎の娘と仲屋まぶなり

与那国島の鬼虎討伐に成功すると、仲宗根豊見親の長男、仲屋金盛は、鬼虎の娘を人質として宮古島へ連れ帰ります。くる日もくる日も水汲みをさせられ、故郷に帰ることも許されず、自ら命を絶した鬼虎の娘の無念は、金盛の娘、まぶなりの悲劇に重なります。

ロングコース ～御嶽とカー(井戸)を巡る～

【宮古人と御嶽信仰】

宮古島には数多くの御嶽があり、人々の暮らしと深く関わっています。霊験あらたかな人物の骨を埋葬した場所や、何らかの理由で霊性を宿す場所、特別な人の住居跡などが御嶽として信仰の対象になることが多いようです。御嶽の神性は、宮古島の人々の生活を左右するほど強く、その場所を侵す工事の計画があると事故が多発し、なぜか事業が進まないという話もよく聞かれます。

【宮古島の人々と降り井】

川のない宮古島では、水の確保を自然壕にできる泉に頼ってきました。水に恵まれた地域では早くから集落がひらけ、歴史の舞台となっています。水にも命があるという想いから、使用しなくなった井戸に蓋をする場合も息抜きのパイプを通すのが通例です。

1 真玉御嶽

正直者で信心深い夫婦のお骨が祀られている。

2 人頭税石

「石と同じ背の高さになると課税された」が通説となった人頭税石だが、実際には身長に関係なく15～50歳までの年齢で税は課されていた。

3 湧川まさりや御嶽

宮古島に伝わる竜宮伝説のひとつ。漁師の湧川まさりやが捕まえたエイが美しい女性になり、ふたりは契りを交わす。まさりやは竜宮へ招かれ三日三晩もてなされ、土産をもらって帰ると、三年三か月が過ぎていた。土産は長寿の酒で、樽を聞きつけ押し寄せた人々に調子に乗って「飲み飽きた」と言うと、たちまち壺は白鳥になり飛んで行ってしまった。

4 ウブムイ御嶽

遠く離れた「真玉御嶽」「漲水御嶽」「下地の赤名宮(あかなぐう)」を参拝する御嶽。

6 大和井

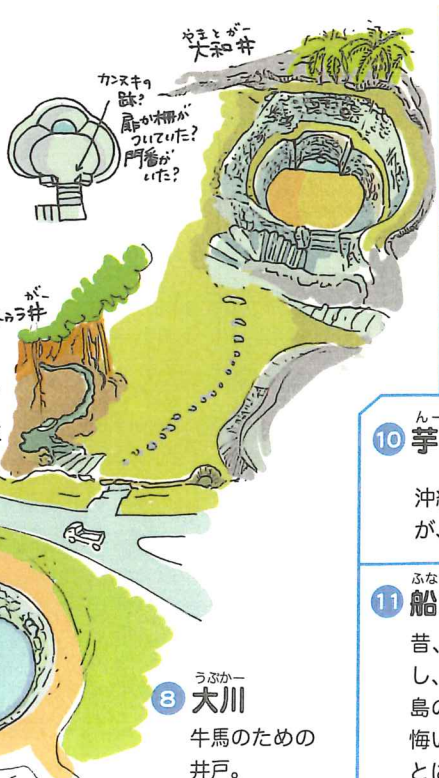
(国指定文化財) 1720年頃に造られた役人専用の井戸。

7 ブトゥラ井

隣接する庶民のための泉。

8 大川

牛馬のための井戸。



5 カー二里御嶽

仲宗根豊見親の側室たちが住んでいたと伝えられる。三方向へ抜ける参道は緊急時の「ピンギンツ(逃げ道)」だったという。

9 保里御嶽

14世紀前後に保里天太(ふさていていだ)が築いた城跡。保里天太には怠け者の兄と、武芸に秀でた弟の2人の息子がいた。弟は才能を妬んだ兄に追い出され、城辺(ぐすくなぎ)の山里に隠れ住む。やがて年老いた保里天太も城を追われ、次男を頼って城辺へ向かうが、道中で息絶えたといわれる。

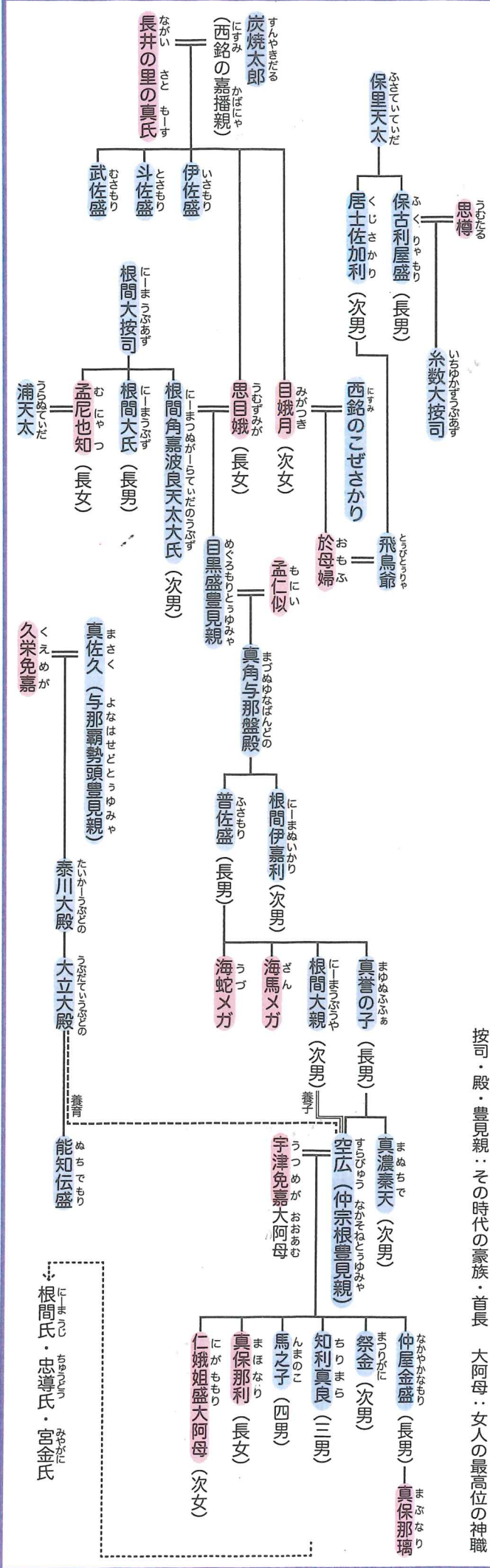
10 芋又主御嶽

1597年、宮古島に初めて芋をもたらした長真氏旨屋(ちようしんうじしよく)を祀っている。沖縄本島では1605年に野国総監が初めて芋を紹介したとされるが、宮古島にはその8年も前に伝えられている。

11 船立堂

昔、久米島に兄と妹がいた。心根の悪い兄嫁は義父をそそのかし、妹を小舟に乗せて流してしまふ。兄は妹を追い、二人は宮古島の張水に漂着。時が過ぎ、妹が久米島へ里帰りをする、非を悔いた父から鉄と鉄の書物を土産にと譲り受ける。兄はそれをもとに鍛冶屋をおこし、村はたいそう繁盛したという。

英雄家系図



按司・殿・豊見親...その時代の豪族・首長 大阿母...女人の最高位の神職